



2010 CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

[web版フルレポート]

地球と社会と人にやさしい企業を目指して

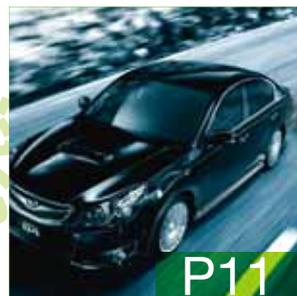


Contents

特集1 5代目レガシィの新しい価値

スポーティな走り と省燃費の両立

スバルの持てる技術がふんだんに活かされた5代目レガシィ。その性能について、開発プロジェクトメンバーに迫ります。



特集2 大型風力発電システムで貢献

クリーンエネルギーで 地球温暖化対策

航空技術を活かした大型風力発電システム。その開発の背景や想いを紹介します。



スバルのありたい姿
「存在感と魅力ある企業」を目指して



特集3 エコアクション21の認証取得
～販売特約店の取り組み～

環境活動が 行動を変える

栃木スバル自動車株式会社では、2010年3月にエコアクション21の認証を取得。自動車を取り扱う会社としての責務を認識し、環境への取り組みをさらに加速していきます。



特集4 統合認証で合理的な
環境マネジメントシステムを構築

乗用車メーカー初の ISO14001 全社統合認証取得

乗用車メーカー初のISO14001全社統合認証を取得。各事業所・製作所の協働により、より合理的なマネジメントシステムの構築を進めています。



- 3 編集方針
- 4 報告メディアの考え方
- 5 トップメッセージ
- 7 CSR・環境担当役員メッセージ
- 8 富士重工業グループの概要
- 9 事業紹介

特集

- 11 特集1 5代目レガシィの新しい価値
- 13 特集2 大型風力発電システムで貢献
- 15 特集3 エコアクション21の認証取得
～販売特約店の取り組み～
- 17 特集4 統合認証で合理的な
環境マネジメントシステムを構築

社会性報告

- 19 CSRマネジメント
- 23 コーポレート・ガバナンス
- 24 リスクマネジメント
- 25 コンプライアンス
- 27 すべてはお客さまのために
- 31 従業員とともに
- 34 社会とのかかわり
- 37 お取引先とともに
- 38 株主の皆さまとともに

環境報告

- 39 環境マネジメント
- 43 第4次環境ボランティアプラン
- 45 環境パフォーマンス
- 47 環境会計
- 51 クリーンな商品
- 55 自動車リサイクル
- 58 クリーンな工場
- 61 クリーンな物流
- 62 クリーンな販売・サービス

サイトレポート

- 63 群馬製作所
- 69 宇都宮製作所
- 75 埼玉製作所
- 79 東京事業所
- 83 本社
- 85 国内関係会社
- 89 海外関係会社

- 93 取り組みのあゆみ
- 95 第三者評価
- 96 第三者評価をいただく

2010 CSRレポートは、冊子版とweb版フルレポートを発行しています。報告メディアの考え方については、4ページをご覧ください。

編集方針

本レポートは、富士重工業株式会社・国内関連会社・海外関連会社のCSR(企業の社会的責任)の取り組み成果をご紹介します。お客さま・株主の皆さま、取引先・地域社会・従業員などのステークホルダーと、コミュニケーションを図り、取り組み内容のさらなる向上を目指すことを目的として発行しました。

なお、本レポートは冊子版とweb版フルレポートで構成されています。冊子版では、ステークホルダーにお読みいただきたい特徴的な取り組み成果を記載した「特集記事」を中心にCSR活動の要約を掲載しています。フルレポートでは「特集記事」のほか、「当社グループ全体のCSR活動」、「当社各事業所や関連会社におけるCSR活動」を詳細に掲載しています。冊子版、フルレポートの掲載内容については4ページをご覧ください。

【環境・社会活動で紹介ページのアドレス】

<http://www.fhi.co.jp/about/envi/report/index.html>

また、本レポートの内容につきましては、2007年度版から引き続きCSRコンサルタントの海野氏(株式会社創コンサルティング代表)に第三者評価を依頼しました。これは当社が「社会的責任を全うする企業」を目指した取り組みを進めるうえで、役立つ意見、評価を継続的にいただきたいと考えたからです。この評価書は本レポート95ページに記載しています。

対象範囲

対象企業

富士重工業株式会社(主要な生産・開発拠点の所在地)

- スバル自動車部門
[群馬製作所(群馬県太田市ほか)、東京事業所(東京都三鷹市)]
- 産業機器カンパニー[埼玉製作所(埼玉県北本市)]
- 航空宇宙カンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市、愛知県半田市)]
- エコテクノロジーカンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)]

国内関係会社(国内関連企業部会参画の5社)

- 輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
- 富士機械株式会社(群馬県前橋市)
- 株式会社イチタン(群馬県太田市)
- 桐生工業株式会社(群馬県桐生市)
- 株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)

海外関係会社(北米環境委員会参画の5社)

- S I A:Subaru of Indiana Automotive,Inc.(インディアナ州ラファイエット)
- SOA:Subaru of America,Inc.(ニュージャージー州チェリーヒル)
- SC I :Subaru Canada,Inc.(オンタリオ州ミシサーガ)
- SRD:Subaru Research & Development,Inc.(ミシガン州アンナーパー)
- RMI:Robin Manufacturing U.S.A.,Inc.(ウィスコンシン州ハドソン)

上記関係会社以外にも、国内スバル販売特約店やSOC(スバルオブチャイナ)の活動状況などを紹介しています。

対象期間

2009年度(2009年4月~2010年3月)の実績と一部それ以前の取り組みや本レポート発行直前までのものを含みます。

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」

本レポートに関するお問い合わせ先

富士重工業株式会社 総務部 環境推進室
〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号 スバルビル
TEL 03-3347-2036 FAX 03-3347-2015

発行時期

前回発行:2009年8月
今回発行:2010年8月
次回発行予定:2011年8月

「2009 CSRレポート」第三者評価への対応について

2009年度版でいただいた第三者評価に対しては次のように取り組んでいます。

【CSR活動全般】

- 社員全員がCSRの意識を持ち続けていくよう、継続して取り組むこと。
 - 自動車メーカーとしてどのような課題に重点を置いていくのか、CSRボランティアプランの中で具現化していくこと。また、海外の主要サイトを含めて、計画~レビューまで行っていくのが望ましい。
- ※2009年度は、既存の組織でCSR活動を推進するとともに、今後のCSR推進組織の改正の検討を進めてきました。このなかでは海外を含めた弊社グループの活動をCSRボランティアプランに織り込んだものとすべく活動を推進していきます。

【トピック別の活動】

- サプライヤーへのCSR展開、CSR調達への対応を進めること。
- ※CSRに関する世の中の動きや業界動向との整合性を踏まえながら、2011年度にCSR調達ガイドライン設定に向けた取り組みを進めています。

- 「お客さま第一主義」意識が社内に広がっていることがうかがえる。今後は、海外を含めた特約店に対する意識啓発を深める仕組みを活性化させること。

※2009年度、海外販売特約店CS向上のための要員を増強しました。また今回の2010年度版では海外での取り組み紹介を増加させています。今後も継続的に紹介していきます。

- CSR活動3つの柱として掲げている「環境、交通安全、地域貢献」について、より明確に意識して展開を進めること。

※特に「交通安全」対応については、まだまだ紹介の仕方が不明確な点があります。今後も大きな検討課題として取り組んでいきます。

【報告の媒体と内容】

- 2009年度版から冊子の報告とweb詳細報告とを区別し、内容を整理されたが、まだ検討すべきところが多々あると考えられるので、今後とも検討を続けること。

※2010年度版では、冊子報告のさらなる掲載項目の絞りりとweb報告の充実化を進めました。今後も継続的に改善を進めていきます。

「2009 CSRレポート」アンケートご協力のお礼とご報告

「2009 CSRレポート」(2009年8月発行)のアンケートにご協力いただきましてまことにありがとうございました。多くの方からご回答をいただき、2010年度版の参考にさせていただきました。結果についてご報告いたします。

1.本レポートをご覧になり、内容はいかがでしたか。



2.特に関心を持たれた部分

- 1位 特集記事
- 2位 トップメッセージ、環境マネジメント
- 4位 会社概要

3.今後、内容の充実を望まれる情報や当社の活動に関するご意見など

- ディーゼルエンジンや電気自動車の市場評価が知りたい。
- 燃費の向上をもっと大きく扱ってほしい。
- 障害者の雇用状況をもっと詳しく記してほしい。
- リコール問題が米国を中心に大きくなっている。不具合を隠蔽させない体制をどの様に行っているか紹介してほしい。
- 項目分けがはっきりしていて分りやすく、また分量も増え、CSRに関心を強く持っていることが伝わった。特に環境活動はデータが豊富で、成果が分りやすかった。
- 「環境、交通安全、地域貢献」について、グループ全体として具体的にどんな行動をしているのかをもっとわかりやすく紹介してほしい。



web版フルレポート(PDF)

下記すべての情報を掲載し、
当社グループのCSR活動を網羅的に紹介しています。[全96ページ]



冊子版

当社グループのCSR
活動をポイントを絞って
掲載しています。
[全38ページ]



はじめに

編集方針
報告メディアの考え方
トップメッセージ
CSR・環境担当役員メッセージ
富士重工業グループの概要
事業紹介

特集

特集1:5代目レガシの新しい価値
スポーティな走りと省燃費の両立

特集2:大型風力発電システムで貢献
クリーンエネルギーで
地球温暖化対策

特集3:エコアクション21の認証取得
～販売特約店の取り組み～
環境活動が行動を変える

特集4:統合認証で合理的な
環境マネジメントシステムを構築
乗用車メーカー初の
ISO14001 全社統合認証取得

社会性報告

CSRマネジメント
コーポレート・ガバナンス
リスクマネジメント
コンプライアンス
すべてはお客さまのために
従業員とともに
社会とのかかわり
お取引先とともに
株主の皆さまとともに

より詳細な情報を
webに掲載しています

環境報告

環境マネジメント・環境会計
第4次環境ボランティアプラン
クリーンな商品
自動車リサイクル
クリーンな販売・サービス

より詳細な情報を
webに掲載しています

第三者評価
第三者評価をいただいて

web版フルレポートのみに掲載している情報

環境報告

クリーンな工場
クリーンな物流

サイトレポート

群馬製作所
宇都宮製作所
埼玉製作所
東京事業所

本社
国内関係会社
海外関係会社

取り組みのあゆみ



「社会的責任を全うする企業」、 「存在感と魅力ある企業」の実現とともに、 CSRの取り組みをグローバルに推進してまいります。

まずは、本書に関心をお持ちいただきましたステークホルダーの皆さまに感謝申し上げます。

私たちスバルでは、環境活動をCSR活動の最重要項目として認識するとともに、これらの社会問題に対処することが「企業市民」として私たちが果たすべき使命であると考え、持続可能な社会の実現に向け、スバルグループ全体での取り組みを進めております。

地球温暖化防止に関するグローバルな動きとしては、2010年11月、メキシコの首都メキシコシティにおいて、気候変動枠組条約第16回締約国会議(COP16)が開催され、京都議定書に続く、2013年以降の国際的温暖化対策の検討が予定されています。

一方、わが国では、2010年3月12日に地球温暖化対策基本法案が閣議決定され、2020年に1990年比25%削減、2050年には1990年比80%削減という温暖化ガス削減の中長期目標が定められました。

スバルでは、事業活動が地球環境に与える影響を強く認識して、自動車業界を中心に産業界との連携を図りながら、より一層の地球温暖化対策に取り組んでまいります。

具体的には、2007年度から2011年度までの取り組みである「第4次環境保全自主取り組み計画」の達成に向け、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして低炭素社会の実現と地球温暖化防止などのさまざまな社会問題に対し、商品開発から生産、物流、販売、自動車リサイクルに至る事業活動のあらゆる段階を通じて、これまで以上に積極的な取り組みをグループの総力をあげて進めてまいります。

スバルの開発においては、「快適、信頼の新しい走り」と地球環境の融合を目指しています。従来のエンジンに対して10%以上の燃費改善を行った新しい水平対向エンジンの開発や、CVT(リニアトロニック)との組み合わせ等により更なる燃費改善を行います。また、電気自動車やハイブリッド車も重要な技術のひとつとして位置づけ、2009年6月に電気自動車(プラグイン ステラ)の法人・官公庁向け販売を開始いたしました。ハイブリッド車につきましても、市場導入に向けて開発を進めております。

また、CSRに関するグローバルな動きとしては、2010年秋にISO(国際標準化機構)によるSR(Social Responsibility)規格26000が発行され、社会的責任に関する国際的なガイドラインが制定される予定です。

スバルでは、中期経営計画において、経営ビジョンの一つとして「社会的責任を全うする企業」を掲げ、長期的な経営ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を実現するとともに、これらのグローバルな動向も踏まえながら、さまざまなステークホルダーの皆さまから信頼いただける企業を目指して、CSRの取り組みをグローバルに推進してまいります。

2010 CSRレポートを通じて、スバルグループのさまざまな取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をちょうだいできれば幸甚でございます。

代表取締役社長

森 郁夫

現在推進しております中期経営計画の経営ビジョンに「社会的責任を全うする企業」を掲げております。輸送機器メーカーである当社は、お客さまにご満足いただける商品開発、製造、販売を通じて、さまざまなステークホルダーの皆さまに対しての社会的責任があります。その社会的責任を全うするということは、地球環境にやさしい商品の創出と経済状況の変化に対処し得る企業をつくり上げることにほかなりません。

当社では、環境活動をCSRの重要項目として位置づけ、全事業所でISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を個別に取得し、積極的な環境保全活動を推進してまいりました。2010年2月には、これまで事業所別に取得してきたISO14001の認証を、富士重工業として全事業所と一部のグループ企業を統合して取得いたしました。このISO14001の統合認証により、温暖化対策、省エネルギー対策、環境情報管理や環境法令対応などの一元管理を可能とし、スバルグループにおける環境活動のレベル向上を図りました。また、この統合認証の取得に伴い、2010年3月に環境方針を改定いたしました。新たな環境方針では、事業活動におけるあらゆる段階での環境取り組みを示し、グループ全体で一貫性のある環境保全活動の方向を定めました。

一方、CSR活動においては、2009年6月にCSRの基本的考えである「守りと攻めのCSR」をより明確にするとともに、グローバルな展開を視野に入れ、CSR方針を改定いたしました。お客さまに喜んでいただけるモノづくり企業として、「企業行動規範や重要項目の尊重を主体とした守りのCSR」と「企業市民として事業活動を通じて社会課題の解決に寄与することを主体とした攻めのCSR」への取り組みをCSR方針として定め、CSR活動を推進しております。

2007年に制定した、グループ共通のCSR活動3つの柱(1.環境活動 2.交通安全活動 3.地域貢献活動)については、CSR活動に対する理解の啓発、浸透を図るため、従業員一人ひとりの個人レベルの取り組みとして、全事業所において積極的な活動を推進しており

ます。さらに、2008年からグローバルな推進体制として構築した北米CSR委員会では、当社方針の展開と北米各社間の情報共有を踏まえつつ、それぞれの地域の文化、習慣などの特質を尊重したさまざまなCSR活動の取り組みを進めております。

当社には、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、環境問題、交通安全、地域貢献を中心にさまざまな社会的責任があります。その重大な責務に対して、すべての企業活動を通してグローバルな取り組みを推進していきたいと考えております。

今後とも、スバルをよろしくご願い申し上げます。

代表取締役副社長

奥原一成



会社概要 (2010年3月31日現在)

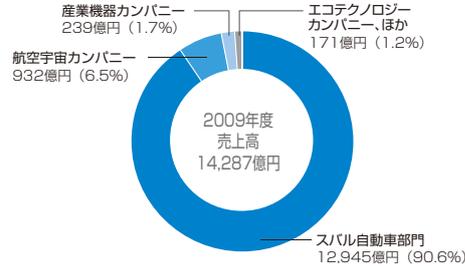
社名 富士重工業株式会社
(Fuji Heavy Industries Ltd.)
 創立 1953年7月15日
 資本金 1,537億円
 従業員数 27,586名(連結)
 13,009名(単独)
 本社 〒160-8316
 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
 代表電話番号 03-3347-2111

売上高 14,287億円(連結)
 9,521億円(単独)

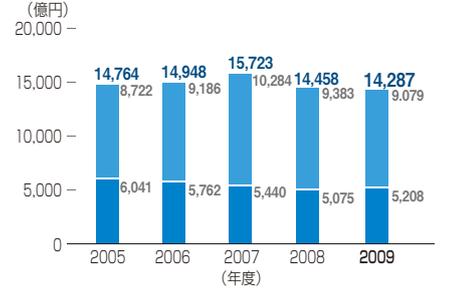
営業利益／
 損失 ▲125億円(単独)
 経常利益／
 損失 ▲126億円(単独)
 当期純利益／
 損失 ▲322億円(単独)
 連結子会社 国内51社、海外20社
 持分法適用の子会社 国内6社、海外3社

*売上高～当期純利益／損失の数値は2009年度実績です。

2009年度売上高部門別比率(連結)



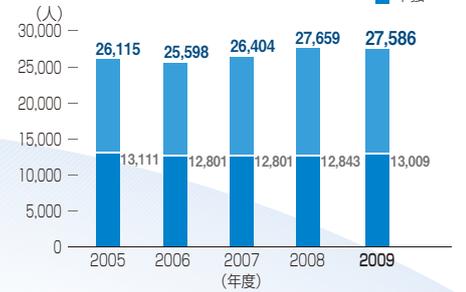
売上高推移(連結)



販売台数の推移(連結)



従業員数の推移



*グラフの数値は四捨五入のため、比率の総和が合わない場合があります。

主な拠点紹介



*1 本レポートでは、航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニーの生産拠点を「宇都宮製作所」と、また、産業機器カンパニーを「埼玉製作所」と表記している場合があります。

独創的な先進技術で、 時代のニーズに対応した商品を開発・製造

富士重工業株式会社は、スバル[SUBARU]ブランドのもと、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして4つの事業部門を展開しています。「スバル自動車部門」「航空宇宙カンパニー」「産業機器カンパニー」「エコテクノロジーカンパニー」。その独創的な先進技術と個性により、快適で楽しい未来の創造に貢献します。



ルクラは、「快適・広々空間のスタイリッシュモデル」をコンセプトに、日常生活のさまざまなシーンで活躍できる軽乗用車として、2010年4月に発売されました。なおルクラは、ダイハツ工業よりOEM供給を受けるモデルです。

SUBARU Automotive Business

スバル自動車部門

「すべてはお客さまのために」という 姿勢で商品を提供

所在地 群馬製作所(群馬県太田市、伊勢崎市、邑楽郡大泉町)
東京事業所(東京都三鷹市)

当社は1958年に「スバル360」の発売で自動車メーカーとしてスタートを切って以来、日本の自動車産業の発展に寄与する個性的なクルマを送り出してきました。例えば、「スバル360」は、航空機づくりの思想をふんだんに採り入れた精緻なパッケージング、徹底した軽量化に斬新な技術的特長がありました。1966年に発売した「スバル1000」は、当社の個性ともいえる水平対向エンジンを搭載。量産車として先駆けとなる前輪駆動(FF)レイアウトを採用しました。

1972年、世界初の乗用四輪駆動車を発売。以後当社は、このレイアウトを「シンメトリカルAWD※1システム」として確立してきました。1990年代以降、日本ではハイパワーターボエンジンと四輪駆動を組

み合わせた高性能ステーションワゴン、米国では乗用車の快適性とSUVの機能性を融合させた「クロスオーバー」※2という分野を切り開いてきました。

当社は、「ドライバーズカー」として快適で楽しい走りと地球環境との融合を約束するクルマの開発を続けています。

地球環境への配慮と実用性を兼ね備えた、これからの時代にふさわしい電気自動車を目指して。プラグインステラは、ビジネスや日常での利便性を追求し、短い充電時間で効率よく走れるバッテリー量を選定するなど、シティ・コミューターとしての最適なバランスを実現した電気自動車です。



2009年5月に発売された5代目レガシィは、「新しい時代にふさわしい豊かさの提供」というテーマを具体化するため、20年間磨き上げてきたグランドツーリング性能に加え、快適性と環境性能を併せ持つクルマとして開発されました。

国内関係会社

富士機械株式会社(群馬県前橋市)
事業内容:自動車部品・産業機械・農業用トランスミッションの製造、販売

株式会社イチタン(群馬県太田市)
事業内容:自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売

桐生工業株式会社(群馬県桐生市)
事業内容:スバル特装車の製造、スバル用部品の物流管理・スバルエンジン・トランスミッションなどの再生

株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)
事業内容:自動車およびその部品の梱包、出荷、陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

海外関係会社

SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.
スバル オフ インディアナ オートモーティブ インク
(インディアナ州ラファイエット)
事業内容:米国におけるスバル車の製造、トヨタ車の受託生産

SOA: Subaru of America, Inc.
スバル オフ アメリカ インク
(ニュージャージー州チェルシー)
事業内容:米国におけるスバル車および部品の販売、整備

SCI: Subaru Canada, Inc.
スバル カナダ インク
(オンタリオ州ミシサーガ)
事業内容:カナダにおけるスバル車および部品の販売、整備

SRD: Subaru Research & Development, Inc.
スバル リサーチ アンド ディベロップメント インク
(ミシガン州アンナーバー)
事業内容:北米市場におけるスバル車の研究開発

※1 AWD
All Wheel Drive 四輪駆動。

※2 クロスオーバー
1995年8月ステーションワゴンにSUVの機能性を融合させたスバルアウトバックを発売。

Aerospace Company

航空宇宙カンパニー

航空機づくりの技術とスピリットを伝承

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)
半田工場(愛知県半田市)

1917年に創設された航空機メーカー「中島飛行機」。航空宇宙カンパニーはその航空機づくりの技術とスピリットを受け継ぎ、主翼などの複合材を含む航空機構造体の開発技術や、無人機分野でのIT技術、飛行制御技術を融合した高度システムインテグレーション技術など、さまざまなカテゴリーでナンバーワン技術



© The Boeing Company

を確立しています。その技術を応用し、ヘリコプター、固定翼機、無人機の開発・生産を行っています。

さらに、大型旅客機や小型ジェット機の開発・生産にも参画。世界レベルでの発展を目指して、新たな分野に積極的に挑戦しています。

国内関係会社 輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
事業内容:航空機部品の製造、販売

ボーイング787は、ボーイングの旅客機として初めて主要な部分に、アルミよりも軽くて丈夫な炭素繊維複合材を採用した画期的な機体です。富士重工業は主翼と胴体をつなぐ中央翼を製造しています。2009年には初飛行を果たし、近い将来世界中の空で活躍する旅客機として期待されています。

Industrial Products Company

産業機器カンパニー

地球のあらゆる場所で使われる汎用エンジンを量産

所在地 | 埼玉製作所(埼玉県北本市)



EH72FIは、吸気流量の向上を図り高出力化を実現するとともに、新開発の電子制御燃料噴射システムを採用することで、外気温や空気濃度など外的要因に影響を受けにくい高性能次世代汎用エンジンです。始動性や運転性、燃料噴射マネジメントの最適化により燃費性能・排ガス性能の向上や加減速時における機敏な反応を実現しました。

産業機器カンパニーでは、「ロビン」ブランドの汎用エンジンとロビンエンジンを搭載した商品を開発・生産・販売しています。ロビンエンジンは2,000種類以上の豊富なラインナップでお客さまのニーズに応え、社会の基盤をつくる建設機械

海外関係会社 RMI : Robin Manufacturing U.S.A., Inc.
ロビン マニュファクチャリング USA インク
(ウィスコンシン州バドソン)
事業内容:米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用のエンジンの製造、販売

や農業機械をはじめ、豊かな生活を彩るレジャー機器、発動発電機などで愛用されています。酷暑、極寒、砂漠、水上など地球上のあらゆる場所、使用条件で安定的に働き続けるため、性能向上に努めています。



eカッタープロは、排気ガス削減や騒音、振動に配慮した環境配慮型の充電式草刈機です。また最新のリチウムイオンバッテリーを採用することで高出力、長寿命を実現しました。

Eco Technologies Company

エコテクノロジーカンパニー

住みよい環境と資源循環型社会に貢献

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)

エコテクノロジーカンパニーは、廃棄物の収集運搬やリサイクル処理のための各種車両・装置など、住みよい環境と資源循環型社会に貢献する多様な製品を手がけています。またクリーンなエネルギーを生み出す風力発電システムを開発し、製品を通じて地球環境保全に取り組んでいます。

また、世界で初めて実用化した高層ビル無人清掃ロボットの技術は、屋外型清掃ロボットやごみ搬送ロボットの実証実験に応用されています。

高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの休憩施設を自動で清掃する「サービスエリア清掃ロボットシステム」をNEXCO中日本と共同で開発しました。今後、お手洗いやレストランなど営業施設内の清掃への導入を計画しています。



富士重工業が長年培った航空機技術の魂と、地球環境に対する真摯な思いが、新たな発想の風力発電システムを生み出しました。日本の厳しい自然環境のなかで、より効率的なパフォーマンスを発揮します。

2010年4月に発売された電動式塵芥収集車フジマイティーエレクトラは、廃棄物の収集や排出などの作業をシールドバッテリーを動力源とした専用モーターで行うため、エンジンを停止させることができ、作業時の二酸化炭素の排出量や消費燃料、騒音などを大幅に削減することが可能です。

